

2020年度（令和2年度）事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

1 事業の成果

（1）育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」(以下いっぽ)の運営、『みどりっこカレンダー』『みどりっこひろば』を通じた子育てに関する情報の提供など行い一定の成果を上げた。

令和2年3月からの新型コロナウイルス感染症拡大により、親子のひろばの休止や、地域の支援の場の多くが中止になるなど、親子が交流できる機会が減ってしまう年度だった。親子にとって交流の場があることの大切さを実感し、ひろばがある意味を再確認した。場を介してのつながりだけでなく、SNSを使った発信や、オンラインサロンなど、交流を意識した事業も工夫して行った。

区内の支援の場の状況が変動する中、受託している事業を連動させて最新の情報を収集・提供することができた。これにより情報を受ける側にも、発信する側にも、情報提供機能の周知が進み、内容をより充実させることにつながっている。

いっぽでは、次期5年の運営法人に選定された。3期の運営を振り返り、今後入れていきたい取組みを整理した。

また、法人のホームページを新たに作成した。緑区で子育て支援活動を行う団体として、広く地域に周知していくために活用していきたい。

（2）障がいのある子どもと親への支援事業

いっぽにて「気になる子のサロン」を開催し、母親同士が気軽に話すことができる場を提供した。

（3）児童及び青少年の健全育成にかかる事業

いっぽにて中学生・大学生のボランティアや看護学生の実習受入れ行い、これから親になる学生が乳幼児とふれあえる機会を提供した。

2 事業内容

（1）育児支援に関する事業

①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

実施日時	月～金曜日 午前9時30分～午後4時30分 土曜日（月1回）午前9時30分～午後2時30分
実施場所	みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	2人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに0～3歳児）
支出額	8,080,730円
事業実績	<ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：1,862人（3,714人） （ ）内数値は 前年度実績 一日当たりの平均利用者数：9.1人（17.0人） 新規登録組数：143人（138組）*令和2年度より子ども単位の人数で集計 <一時預かり> のべ預かり児童数：157人（288人） 総利用時間数：452時間（917.25時間） *新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4、5月はひろば休止

【1年間の報告】

- 年度初めから緊急事態宣言発出のためひろばは休止、6/4より再開した。利用については組数を段階的に増やし9月からはひろば内が密にならない組数(上限8組目途)にし、昼食時間は設けず30分閉館しひろば内の消毒を行った。
- プログラムは前半オンラインでの開催を行ったが参加が少なかった。専門の講師の方への相談プログラムから始め、後半はほぼ通常のプログラムを開催。参加の多いプログラムには人数制限を設け予約制にした。「赤ちゃんたいむ（赤ちゃんと楽しもう）」には赤ちゃん教室などが休止になり、行く場所がない親子の参加が多かった。「マタニティタイム」は11月より開催。
- 一時預かりは4月～8月については利用がほとんどなかったが、9月から徐々に増え、後期は例年通りの利用状況となった。理由には復職に関するものの固定利用が多く、区と繋がりのある親子の預かりもあった。

②「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」の運営

ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」
「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	7人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	31,771,220円
事業実績 ()内数値は 前年度実績	年間利用者数(大人・子ども): 13,236人(21,122人) 一日当たりの平均利用者数: 65.9人(96.4人)(6～3月利用平均) 累計登録者数(子ども): 4,547人(4,884人) 令和2年度新規登録者数(子ども): 549人(849人) 新規ボランティア登録者数 10人(31人) 年間ボランティアのべ活動者数 314人(535人) 利用者支援事業相談件数 249件(270件) *新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4、5月はひろば休止

【1年間の報告】

- ・ひろばが休止した4、5月には、オンラインサロンの開催やインスタグラムでの情報提供など新たに始めた。また、いっぽ通信の利用者宅への郵送やオンラインでのアンケート実施など、外出できない期間中でも利用者といっぽのつながりが持てる取組みを工夫した。
- ・6月よりひろばを再開し、状況にあわせた感染対策をとりながら、親子が交流する場であることを重視して事業を工夫した。蜜を避けるため、拠点敷地内を活用したお庭遊びや、公園遊びなども回数を多くして行った。
- ・ひろば再開後は、交流の場が減ったことで不安を抱える養育者からの相談が増えた。親同士の交流が進むよう促しながら、子育てパートナーやひろばスタッフがゆっくり話を聞く体制をとって対応した。
- ・利用者支援事業では、ひろば休止中も継続して相談を受けた。子育てパートナーとのつながりが感じられるようにブログを更新するなど工夫した。
- ・ひとり親やろうの母親が参加するサロンの開催など多様な養育者に向けた取組みも行った。緑区社会福祉協議会をとおして、食支援(フードドライブ)を利用する子育て世帯とつながる機会もできるなど、支援の幅が広がっている。
- ・スタッフそれぞれが、ひろば・利用者支援・子育てサポートシステム等すべてあわせて拠点事業ととらえることができるよう、担当の部署を超えて事業を進める機会を多く作った。それにより、拠点内の協力・連携体制が進み、視点の違う意見や、新しいアイデアが出やすくなった。新たな企画の提案などに活かされている。
- ・運営法人応募のため、今後のいっぽが目指すことについて、スタッフ間で話す機会を多く持った。緑区に一つしかない拠点として、ひろばを利用する養育者以外にも目を向けることや、子育て中の人に限らず、より多くの人にいっぽを知ってもらえる取組みが必要なことを共有した。

イ. 「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	3人/1日
対象	横浜市在住の0歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	8,584,173円
事業実績 ()内数値は 前年度実績	会員数: 利用会員 663人(691人) 提供両方会員 224人(229人) 令和2年度入会者数: 利用会員 143人(178人) 提供両方会員 10人(21人) コーディネート件数: 139件(223件) 実働会員数: 利用会員のべ 572人(904人) 提供・両方会員のべ 510人(710人) 活動件数: 3,497件(5,677件) 入会説明会: 24回実施 125人参加 (うち利用会員 116人・提供・両方会員 9人)(30回 249人)

個別説明：64人参加（利用会員61人 提供・両方会員3人）（81人） フォローアップ研修：11/13 4人参加 交流会：10/30 7人参加 子育てサポート通信：3回発行 「いっぽ保育隊」：入会説明会の保育のみ 3回
--

【1年間の報告】

- ・年度始めの緊急事態宣言発出中に、不要不急の利用は控えるよう案内していたことや、利用会員の生活スタイルの変化（在宅ワーク）で送迎等利用の機会が減ったため、年間の活動件数は低調だった。また入会説明会の参加者も少なかった。
- ・提供会員予定者研修会は開催することができたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公的施設の休館や子育てサロンの休止等ボランティア活動がしにくい状況もあり、提供会員への勧誘を積極的に行うことが難しかった。
- ・いっぽのひろばを利用して、提供会員に子どもを預ける体験をする「はじめてのお試し預かり」を設定し、利用会員が子どもを預ける（サポートを利用する）きっかけを作った。提供・両方会員の活動の場を提供することにもなり、活動に対するモチベーションの維持に努めた。
- ・会員交流会の開催が難しい中で、日ごろのコミュニケーションを通して会員の活動に対する不安、要望を丁寧に聞き取り対応することができた。
- ・提供会員の高齢化に伴い活動を支える会員の増員が急務となっている。次年度は身近な子どもの見守り活動としてのこの制度を、直接子育てに関りが無い世代にも幅広く知ってもらうため、地域とのつながり作りを力を入れていきたい。

③子育てに関する情報の発信・提供

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児とその保護者
支出額	1,342,126円
事業実績	『みどりっ子カレンダー』：毎月1000部発行、掲載園27園、配布先47か所 『みどりっこひろば』：随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン：毎月発行 476人登録（前年度534人） 『みどり子育て応援ガイドブック』改訂版編集

【1年間の報告】

- ・区内の保育施設の地域開放事業を紹介する『みどりっ子カレンダー』では、保育園22園、幼稚園5園の情報を掲載している。
- ・緑区の子育て情報サイト『みどりっこひろば』では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベントや子育てサロンの開催状況が流動的だったが、既存のネットワークを活かして情報収集できた。イベントカレンダーを随時更新し、区内の親子にタイムリーな情報提供ができた。赤ちゃん教室など区の事業のお知らせ場所としても活用された。
- ・緑区が発行する『みどり子育て応援ガイドブック』の改訂版の編集を今年度も継続して行った。

④集団出張保育

実施日時	通年
実施場所	霧の里ほか
従事者	登録スタッフ 25人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	44,333円
事業実績	定期託児：なし 出張保育：7回実施、保育した子どものべ10人、スタッフのべ13人 （前年度17回 保育子どものべ85人 スタッフのべ42人）

【1年間の報告】

- ・緑スポーツセンターの定期教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため託児付きが実施されず、依頼はなかった。
- ・かながわアートホールでの木村真紀さんの生配信コンサート時、出演した母親のお子さんの託児を行った。
- ・霧の里で行われた日本語教室（6回連続講座）での託児を横浜国際交流協会より依頼され、外国籍のお子さんを同室にて預かった。

⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	140,051円

【1年間の報告】

- ・緑区こども家庭支援課より受託している「赤ちゃん教室」中山会場、長津田会場の運営・進行を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止の期間があり、年間で中山会場3回、長津田会場5回の実施となった。
- ・様々な団体とのつながり持てるよう参加している地域の連絡会等も中止や書面開催が多く、直接顔を合わせての関係づくりが難しい状況にあった。継続したつながりが保てるよう、対面の会議には積極的に参加した。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

- 「緑区地域施設間連携会議」
- 「緑区要保護児童対策地域協議会」 いっぽ、はなまるともに参加
- 「緑区セイフティネット会議」
- 「十日市場施設間連携会議」
- 「十日市場中学校地域交流事業実行委員会」
- 「緑区読書活動推進連絡会」
- 「緑区防災ネットワーク運営委員会」
- 「緑区市民活動支援センター運営委員会」（運営委員 木村真佐子）
- 「緑区国際交流ラウンジ」（運営法人理事 松浦千恵）
- 「みどり障がい児者ネットワーク」
- 「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」
- 「子育てひろば全国連絡協議会」正会員
- 「十日市場自治会」特別会員
- 「新治西部地区社会福祉協議会」会員

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	28,581円
事業実績	気になる子のサロン 年間10回実施106人(大人50人・子ども45人)参加 (前年度11回実施・91人参加)

【1年間の報告】

- ・いっぽにて「気になる子のサロン」を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の状況の中でも、このサロンが相談の場であることを重視し、感染対策をとりながら7月よりサロンを再開した。保護者同士が、気持ちを話し合える場となった。昨年はなままでのサロンで好評だった先輩ママから就園・就学に向けて体験談を聞く会も設けた。

- ・サロンには多様な障害を持つお子さんと親が参加するようになり、話しの幅が広がっている。
- ・はなまるでのサロンについては、広さについての課題があり今年度の実施は見送った。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点 いっぱほか
従事者	3人
対象	地域の中中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者
支出額	0円（主にいっぱい事業の中で行った）
事業実績	高校生ボランティア のべ9人 大学生ボランティア のべ15人 大学等実習生受入れ 2人

【1年間の報告】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、近隣中学校のボランティア活動や職場体験、看護学校の実習が中止となり、ひろば利用者親子と学生との交流の機会が少なくなった。その中でも、緑区社会福祉協議会より新たに学生ボランティア3名が紹介され、いっぱいひろばにて高校生・大学生が乳幼児とふれあうことができる場とすることができた。
- ・桜美林大学健康心理現場実習を2名、のべ22日受け入れた。専門職に就く者に実践の場を提供するとともに、親の健康維持や子どもとのかかわりについてスタッフと意見交換する機会にもなった。